

『製造現場基礎講座』

第2回 講座ダイジェスト

実施日 : 2017年7月24日(月) 10:00-17:00 @京都府中小企業会館

参加人数 : 24名(全員参加)

担当講師 : 学校法人産業能率大学 顯谷先生

§ オリエンテーション

1) 第2会合の講座内容の確認

第2会合では「稼ぐ力」をつけるためのベースとなる考え方、働く現場の環境について触れていきます。イメージとしては、会社にちゃんとお金が残る仕組みを、監督者として考えていきます。その中でも、特に「5S」についてしっかり学びます。活動が形骸化してしまうと、かえって時間の無駄になってしまいます。そうならないための考え方をお伝えしていきます。

2) 前回(第1会合)の課題の振り返り

はじめに、前回のテキストを見直して学んだ内容を振り返りました。生産とは何か、生産マネジメント(3条件4要素)【利益=売上高-費用】この式から2つのアプローチを確認しました。

① コスト(製造原価)を下げる(QCDへの影響できる)、

売上高は、お客様が決めるため、影響や変動も大きい。自分たちで出来ることは費用をいかに抑えるか。

② 売上を上げる = 機会損失を防ぐ(チャンスロスを防ぐ。Fによる動き)

お客様から求められる時は重なるもの。取りこぼしの無いように対応できるかが、鍵になっている。

その他、生産資源や生産計画の内容、マネジメントレベルの変化、現場力も見ていきました。

そして、前回の振り返りと課題について、グループ共有頂き、発表しました。発表内容として、年上部下(メンバー)に動いてもらうことに苦労している話や社内ルールを守らない人への説得の難しさがありました。また、自身の経験不足でメンバーに言い切ったり、教えたり出来ないことを悩んだり、目先の仕事の処理に追われて、PDCAが出来ていないことを問題視している発表もありました。また改善活動が一部の人に偏ってしまい全員でできていないことで、現場の状況を共有できていない事象もありました。こうしたことへの対応として、仕組みや制度と絡めて活動していきたい話もありました。人に関する問題(教育や配置、報連相などのコミュニケーション)から、稼働率、多能工など製造現場の至る課題までを人材育成と併せながら、取り組むべき課題として捉えている方も多く見えました。

§ 講座内容1. 製造現場における儲けの仕組みを理解する

はじめに「競争力」を要素分解したもののから製造現場に関係する費目に着目しました。さらに「決算書」から「損益計算書(P/L)」「貸借対照表(B/S)」の基本を見ていきました。」

1) 損益計算書(P/L)、減価償却

テキストP7-9の図表を見ながら、一つひとつ確認していきました。特に、製造現場に影響を与える「減価償却」については、テキストP14を用いながら丁寧に説明をしていきました。

2) 貸借対照表 (B/S)

こちら、テキスト P 17 - 19 の図表を一つひとつ確認していききました。途中、売上原価と在庫の関係については、例話を示しながら具体的に考えていききました。

§ 講座内容 2. 生産性を阻害する要因と改善に向けた着眼点を持つ

このセッションでは、生産性に影響を与える考え方として「ムリ・ムダ・ムラ」を説明しました。そして、生産性の概念を【生産性 = 生産量 (高) / 生産要素の投入量】 (= インプットに対するアウトプットの効率) の式で見えていききました。また「量」については、「単位」に注意をしながら合わせる必要があることもお伝えしました。管理に必要な原単位 (標準時間等) についても、テキスト P 25 を見ていききました。

1) トヨタ生産方式の 7 つのムダ

ムダを見抜く目を養うために、7 つのムダ (①つくり過ぎ ②手待ち ③運搬 ④加工そのもの ⑤在庫 ⑥動作 ⑦不良を作る) を見ていききました。そして、演習「自社の 7 つのムダを考える」について、グループワークで話し合いました。各グループの演習内容は模造紙に整理し、後日、受講者に別途案内しました。重要なことは、ムダが起きている現象面をきちんと捉えることをお伝えしました。

2) 改善の着目点と実践

3 現主義 (現場・現物・現実) が基本であることを伝え、改善の 4 原則 (E C R S) を説明しました。さらに動作経済の基本原則などを確認しましたが、要は疲労の少ない動作を考えて、取り入れていくことが大事であることをお伝えしました。

そして、改善の実践に向けては、互いの考えを言い合い、共有できるようにするための方法として、ブレインストーミングのルールをご紹介します。様々な人の意見を吸い上げる方法として紹介しましたが、話すだけでなく書いて共有することが効果的であることもお話ししました。

§ 講座内容 3. 儲けるための 5 S の徹底

「見える化」が起きる原因、5 つのステップと具体的な説明をしました。また本講座の主題でもある 5 S の内、3 S (清掃、整頓、整理) が稼ぐ力を高めていくための重要な活動であり、さらに 2 S (躰、清潔) は稼ぎ続けるための力を高めていくものであることを説明しました。それぞれの S については、テキスト P 50 ~ 詳しく見ていききました。特に、整頓は「モノのおき方の標準 (見つける、使う、戻す) を考える」ために、動きの基準を考える具体的な方法を、講師の指導経験を写真で示しながら、説明していききました。

§ 事後課題の案内

課題「自社の生産ロス要因の抽出」シートの記入

今回の学習内容を振り返りながら、「自社の生産ロス要因の抽出」をお願いしました。

また記入した内容については、上位者と話し合い、コメントを記入してもらうことをお願いしました。

以上